

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894100037		
法人名	社会福祉法人 太子福祉会		
事業所名	グループホーム 太子の郷		
所在地	兵庫県揖保郡太子町太田231番地1		
自己評価作成日	平成28年2月9日	評価結果市町村受理日	平成28年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティー・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成28年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様・家族様と向き合う姿勢を持ち続け、自分らしく快適な時間を過ごしていただく事に努めています。季節が感じられる暮らしを大切に、中庭を活用した花・野菜作りを行っています。</p> <p>日々の生活の中で、時分時には食事の香りが漂い、テーブルを拭く、お箸の準備をするなど、また、洗濯物・タオルたたみ等、自分のできることをさせていただきながら、当たり前の暮らしを大切にしています。</p>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームは、地域密着型特養、特養、ショートステイの複合施設が在る広大な土地に併設している。建物内には 中庭も数か所あり、草花や野菜、イチゴなどを育て利用者は毎日の生活をどこかゆったりと楽しんでいました。たまには 1階にあるカフェコーナーに数人連れだってお茶を飲みながら合唱するのが楽しみの1つとなっています。そんな中で各ユニットの出入り口は自宅の玄関のように設えてあります。退出する時にはお一人の利用者にお見送りを頂きました。年4回開催の介護予防教室には地域住民が100余名も集まったり、幼稚園や小学生も見学して楽しいひと時を過ごすとか、開設2年後にして、既に地域との繋がりが太く強くなってきている様です。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

グループホーム 太子の郷

評価機関：認定NPO法人 コミュニティー・サポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念として、「ほんまものの介護」を追究し、地域社会に貢献できるよう常に意識し、理念に基づいた支援が行えるように取り組んでいます。	法人の理念は「『ほんまものの介護』を追究し地域社会に貢献すること」とし、「利用者や家族に信頼され安心して喜んでもらえるような施設を目指している」等の7項目を事業所の運営方針とし、事務所の壁に掲げ、職員のネームカードの裏に記している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園児・小学生・高校生の慰問によるふれ合いや、音楽会予行演習に招待されるなど、交流の機会を活用しています。	秋祭りには、幼稚園児が子供みこしや手遊びをしてくれる。別れ際に小さな手で握手をしてくれ、利用者はしっかりと握り返していた。小学生の鼓笛隊の訪問もありにぎわう。地域のボランティアがオカリナを月1回演奏してくれ楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、偶数月に定期的に開催している。太子町職員・家族代表・地域の代表の方に参加していただいている。利用状況や各種報告を行い、意見交換している。	運営推進会議を3つの施設が合同で開催する。地域住民代表として神社の宮司が毎回参加し地域の情報をしらせてくれる。太子町の介護保険課とあんしんすこやかセンターの職員のとどちらかが必ず参加する。3施設の中から1名が交替で家族の代表として参加している。	運営推進会議の記録を参加していない家族にも配布して運営管理の情報を広く公開することを期待します。出来るだけ多くの家族に参加をお願いしても良いのではないのでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	太子町担当課職員に相談している。	この地域では数少ない介護保険サービスを提供している複合施設であり、開設当初から施設管理の方法、運営推進会議の運営方針等、丁寧かつ詳細なアドバイスを受けられるよう連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体で、拘束しないケアを理解し、実行している。学習の場を設けている。	廊下から玄関の如く設えたユニットに入る出入り口は鍵を閉めない。居室内は広々としている。身体拘束防止委員会を原則月1回開催する。管理職が中心になり、その取組、緊急止む無いつきの具体的な行為等、事例報告と共に話し合っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修により、高齢者虐待について認識を深めている。	月1回虐待防止委員会を開催して、虐待防止法や事例検討会を学んでいる。本年の1月には委員会が中心になって、施設長が講話した。「施設従事者等による高齢者虐待とは」の内容であり、通報の義務や利用者へのチームアプローチ等について認識を深めた。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、保佐人が付いている入居者様が1名いらっしゃいます。 相談があれば、対応が出来るように管理者は理解しています。	利用者の1人が保佐人制度を利用している。 権利擁護の制度を利用する方も増えてくると推定しているため、この制度に対する職員の意識を高め、理解をするためにも研修計画の中に加えていく考えもある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接時には、重要事項説明書を契約時得るようにしています。	契約時には重要事項説明書等を使い、事業所としてできることできないことを明確に説明している。入居者はサービス付高齢者賃貸住宅からの転居が多い。異動にあたって利用料金等の違いを詳しく理解できるように説明し同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	館内に意見箱を設置し、意見を伺えるようにしている。 家族様とのミーティングを行うなど検討する機会を作っています。	家族の訪問時に会話を多くするようにして、家族や利用者の希望を聞いている。週2回、1階の喫茶室を開き、店員として職員が務め100円のコーヒーを利用者と楽しみ、職員との馴染みの場となっている。その時には職員が利用者と歌を歌って楽しむ。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を行い、意見を聴く機会を作っている。	全体会議やユニット会議は原則、月1回開催して職員の意見を聞く機会を作っている。法人としての人事評価制度の下で、年2回は管理者と職員が個別面談して要望を聞くようにしている。年間の研修制度は出来ており、複数の委員会活動も活発である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、面接を通して向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や希望者に外部研修の参加を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会は今のところ持ったことはない。 管理者は系列の職員と交流している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面接で要望を聞き取り、取り入れるようにしている。			
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安に思われている事、困っていることを聴き取り、不安や心配を取り除けるように努めています。			
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望をふまえて、状況提供を行いながら、納得のできる利用に努めています。			
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個性を尊重し、残存機能を理解したうえで、その人らしく生活が送れるように心がけています。			
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話での近況の報告に加え、共に支援していくという意識を持っていただき、協力していただけることは依頼している。			
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にお聞きしながら、面会者との交流を支援したり、ご家族様により馴染みの喫茶店に出かけたり、美容院に出かけたりされています。	約100名の地域住民が集まる年4回開催の介護予防教室には、馴染みの友人も来るので挨拶等を交わして久しぶりの再会を楽しんでいる。たまには入居中の恩師を訪ね、庭で採れたグミの実や無花果を持参し、師弟で一緒につまんだりしている。		
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別にかかわることも大切しながら、自然に交流が出来るようなテーブル席の工夫を行っています。			

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的に相談・支援は行っていません。家族様と出会った時には何気ない会話をしたり、声を掛けていただいたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、思いや暮らし方の思いを汲み取り、意向に沿えるように努めています。ご自分の言葉として言えない入居者様には、表情や行動から感じ取るようにしています。	入居前に家族を交え聞き取りを行っている。入居後は、折にふれ何をどうしたいかを聞いたり、言葉の出ない利用者には、顔の表情や行動、例えば怒りや困った表情などを読み取り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの聴き取りで生活歴の把握に努めています。日々の関わりの中から、生活歴が効きだせるようなコミュニケーションを図っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子・体調の変化を見逃さないように観察に努め、職員間でノートやケース記録などを活用し、情報の共有に努めています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心に、入居者様・家族様から聞き取った要望をもとに計画を作成しています。	入居前に聞き取った事を基に、ケアマネジャーを中心にケアプランを作成している。利用者の担当職員を定め、変更が必要になった時は、連絡ノートに記載し職員で回覧して変更している。半年に1度ケアプランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や、職員の連絡ノートを活用し、変化により早く気づき対応できるようにしています。必要に応じ、カンファレンスを開き、統一したケアが図れるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関の定期受診は家族様依頼していますが、緊急時には送迎・付き添い・情報の提供など柔軟に対応が図れるように行っています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回の音楽療法の参加や歯科衛生士の口腔ケアの指導を受けて楽しみと安全に生活できるように努めています。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医を利用していただく事が基本に、必要に応じて嘱託医の診察を受けることができるように支援しています。歯科については訪問診療の依頼などの相談も受けています。	入居後も家族同伴でかかりつけ医を受診する利用者と協力医による週に1度の往診を受けている利用者がいる。歯科衛生士による月に1度の歯磨き指導を受けている。又、指導を受けた職員が丁寧に利用者の口腔ケアを毎日行っている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一施設内の看護師と連携し、定期受薬の準備や、情報の共有を図り、相談や必要な処置、今後の対応についての指導を受けています。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーを渡し、利用時の情報提供を行う。退院時にはサマリーを頂いたり、必要に応じて、医療連携室相談員と情報の共有を図っています。	昨年は紹介による入院と夜中の救急入院があった。入院中は度々訪問したり電話で状況を把握したりした。退院時にはサマリーを医療機関側から受けとりスムーズに再入居できた。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から、出来ることできないことの説明を行い、最終的には家族様の意向を伺いながら、納得される方法を選択できるように支援していくことになると説明しています。	重度化や終末期に向けての指針は作成している。点滴や酸素ボンベの導入などの医療行為は出来ないことを家族に説明している。現在の利用者は全員、急変時は病院搬送を希望している。	入居時などの早い段階で、最後はどうしたいか、家族を交えて看取りとすること等を話し合い、書面で確認してはいかげでしょうか。状態が変化した時に再確認するなども含めてマニュアルを作成する事を期待します。
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的には救急マニュアルに基づいて対応をしていきます。両ユニットで協力できることは行っています。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練や救急救命研修に参加しています。	昨年は2回消防署の立ち合いで火災訓練を行った。1回は昼をもう1回は夜間を想定して行った。まずユニットから出て最終的には中庭に避難するよう指導を受け、実際に利用者を誘導した。次回からはマニュアルを掲示する事を確認した。	事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら、特に夜間を想定した火災訓練には、一人でも多くの協力が得られるような取り組みを期待します。(

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様は、人生の先輩であるということを念頭に置き、個々の人格を尊重した対応を心がけています。職員には守秘義務の徹底を図っています。	新人職員に接遇の研修を行っており、マニュアルもある。不適切な言葉を利用者に使用している職員には、他の職員や管理者が注意している。排泄後更衣の必要な利用者にはさりげなく誘導して行っている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中でご本人の思いや希望を聞き、自己決定が出来るように心がけている。意思表示が難しい入居者様も、表情や行動の観察によって思いに近づけるように努めています。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴など基本的な一日の流れは概ね決まっていますが、その中で個々のペースで柔軟に対応し過ごして頂いています。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、自己選択を第一とし、必要に応じて助言をするようにしています。化粧費などは、ご家族様に依頼し、準備・補充をしていただいています。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士により栄養のバランスが取れ、入居者様の状態に合わせたものが提供できるように工夫しています。ご自分のものを一緒に作っていただいたり、準備など出来ることは、見守りながらいただいています。	中庭で野菜やイチゴを育て利用者が収穫したり、もやしの根取りお箸やマットの設置などを利用者が行っている。誕生日会には利用者の好きなものを利用者自身で調理したり、クリスマスにはケーキの飾り付けをして皆で楽しんだ。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎回記録に残して把握できるようにしています。聴き取りを行いながら好みのものを飲んでいただく工夫も行っています。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導の下、入居者様に合った歯ブラシ等を使用していただいて、声かけしながら行っています。磨き残しのところを、職員が行っています。義歯については、洗浄剤使用し夜間に補正に努めています。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表に記録し、トイレ誘導・見守りを行っています。	現在オムツ使用者は1名で、残りの利用者は自立出来ている。立ち上がった時にさりげなくトイレに誘導し、支援している。個別の排泄表を作成して対応している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量の管理を行い、ご家族様の協力の元、必要に応じてヨーグルトの提供を行ったりしています。日頃から、排便状態を観察し、看護師に相談しながら、個々の対応を図っています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は曜日を決め週に3回の入浴を行っています。入居者様の状態や意向を伺いながら、曜日の変更を行ないながら実施しています。2人対応や3人対応をおこないながら、皮膚の観察を行っています。	通常の個浴槽と、端座位で浴槽に入りお湯を足すタイプの浴槽がある。全員が温かいお湯に浸かって入浴を楽しんでいる。体が浮く利用者には職員が浴槽の中で体を支えている。入浴拒否の利用者には、家族来訪時に入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態や要望を伺いながら、生活リズムを大切に、心身ともにリラックスできるように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師が行い、1日分のシートに入れ分けていただいています。変更や内容についての情報を共有できるように一覧表で確認できるようにしています。誤薬・飲み残しがないように注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来ることを把握し、個別の対応や、全体で楽しめることを考えて行っています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力を得ながら、個々の外出はしていただいています。気候に合わせて、施設の外を景色を見たり、休憩をして歌を唄ったりして、楽しんでいただいています。車で外出は、一年に1回程度の実施で、今後は増やしていきたいと計画していく予定です。	中庭に気軽に出て、花や野菜を植え、水やりや収穫を楽しんでいる。家族同伴で外出している利用者もいる。去年は近隣の小学生が迎えに来て一緒に学校へ行き音楽会を楽しんだ。小学生との別れに涙する利用者もいた。	中庭で楽しんでいる様子等の外出の「スナップ写真と一言メモ」をグループホーム独自の様式を作成して、家族づつに発信するのはいかがでしょうか。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度をご自身で持っていたいでいる入居者様もいらっしゃいますが、施設立替請求対応での購入をしていただく事も行っています。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、公衆電話の使用を支援しています。携帯を持っておられ、一部支援によって使用はされています。ご家族様の協力を得ながら、はがきの投函や、届いたものについては、お渡ししています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたディスプレイを一緒に行ったり、季節の生け花を楽しんでいただけるように行っています。温度調整は、共有スペースは一括管理されていますが、居室については、聞き取りながら肌で感じながら調整しています。	お雛様や生け花が飾られ、ゆったりして明るい。2ユニットはいずれも1階にあり入口は玄関仕様でリビングから中庭に出入りできる。又、カフェや足湯のコーナーも1階にあり、カフェで飲みながら歌うのが利用者の楽しみの1つである。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや座席のレイアウトを変えてみたり、気の合った方とのかかわりや、一人でテレビ鑑賞が出来るように支援しています。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス・家族の写真・仏壇などを持ち込まれたり、ご家族様と相談しながら、穏やかに過ごせるような環境作りに配慮しています。	ベッド、洗面台、タンスが備え付けられている。そのほかに利用者や家族が思い思いの家具や飾りつけなどで過ごしやすい部屋にしている。ドアの外側に大きく「あさひ」等部屋の名前を貼りつけている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定になってこられた入居者様には、補助具を紹介しながら、PTの指導を受け使用につなげています。日々の変化に留意し、職員間での情報の共有を行い、残存能力が生かせることが出来るような支援に努めています。		